

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市
 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 桑山ビル8階C号室
 電話 (583) 19000番
 F A X (583) 19100番
<http://www.cn-sho.or.jp>
info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

理事長あいさつ



理事長
伊藤昌石

八月三日・四日両日、本会事業である「国内史跡探訪旅行」にバス三台を連ね、ひとときの涼を求め、奥飛騨へと行ってまいりました。実に充実した楽しい旅行で、まだ一度も参加した事のない方々には、来年の旅行、是非ともお奨めします。

また、十月十日には、「書道教育研修会・外国人書道研修会」が開催され、教育部長の発案で外国の方々をも巻き込んだ、通常とは違った、グローバルな研修会となるものと思っております。

そして、十一月には、「公開講座」「壽書展」が同時開催となり、年末のボウリング大会まで、まだまだ行事が目白押しでございます。今年度の「壽書展」は第二十五回記念展にあたり、祝賀会も準備されています。大ベテランの先生方の卓越した作品が展示されますので、皆さん是非足を運ばれますようお願いしております。

さて、敬老の日にしたニュース厚生労働省発表の統計で、日本人の百歳以上の高齢者が六五、六二九人になったというものがあり、昨年より四、一四四人の増加、一九六三年一五三人だった数字は十八年後に千人を超え、更に十七年後に一万人を突破、二〇一二年には五万人を超え、いまだ四十六年連続で過去最高を記録。凄まじい勢いで増加しているようです。

一方、国の予想する今後の人口推移では、三十年後を超えたあたりで一億人を割り込むような数字になって行き、五十年後に、九千万人を切るとされ、年少人口・生産人口共に減少、高齢人口は増加という傾向にあるそうです。

本会の開催する「中日書道展」も、他展と同様年々出品者数が減少の途にあり、これを打破するにはどのような対策を立てるかが、今後の課題として最も重要視されています。幸い「書道」は生涯追求できるものですので、減少傾向にある若年から増加する高齢者、はては外国人まで幅広く門戸を広げるべく、まずは、指導者の先生方のご協力により一人でも多く、二科公募出品者の参加をお願いし、出品者減少に歯止めをかけるのが急務だと考えております。会員の皆様にもよろしくお願い致します。

目次

- 1 理事長あいさつ
- 2 チャリティー愛の募金
- 3 国内史跡探訪研修旅行（奥飛騨の旅）
- 4 東三河支部創立四十周年を迎えて
- 5 北勢支部創立三十周年を迎えて
- 6 第二十五回記念壽書展
- 7 特別行事・祝賀懇談会開催
- 8
- 9
- 10 第三十三回読売書法展入賞者
- 11 第六十八回毎日書道展入賞者
- 12 第六十七回中日書きぞめ展作品募集
- 13 第二十回公開講座
- 14 会員交流ボウリング大会
- 支部だより（上半期）

「2016年 チャリティー愛の募金」について

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の福祉事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本会では、毎年、年末に「しあわせ薄い人々に愛の手を」をスローガンとして「チャリティー愛の募金」を行っております。

今年、4月の熊本地震により被災されました方々、そして5年半という月日が経過した東日本大震災の方々も、未だ疲弊を余儀なくされています。

つきましては、本会役員の先生方並びに会員の皆様には広く献金をお願いし、中日新聞社会事業団・東海テレビ“愛の鈴”の方へ寄託をして参りたいと思っております。何卒主旨ご理解の上、下記の通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この募金の締め切りを、平成28年11月1日(火)といたします。払込用紙を同封させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

尚、献金の経過並びにご芳名は1月発行の中日会報でご報告をさせていただきます。

ご献金をお願いの基準

| | |
|----------------------------|---------|
| 名誉会長代行、名誉副会長、常任顧問、理事、監事、顧問 | 10,000円 |
| 参与、評議員 | 3,000円 |
| 正会員 | 1,000円 |

敬 具

理 事 長 伊 藤 昌 石
 渉外宣伝部長 岡 野 楠 亭



国内史跡探訪研修旅行を実施して

第一企画部長兼IT部長 横井宏軒

本年度の国内史跡探訪研修旅行は、八月三日(水)～四日(木)の日程で、「奥飛騨の旅」の研修旅行を一〇〇名の参加者で実施しました。国内史跡探訪研修の目的は、知識の習得、情報の収集および会員相互の親睦、連携を図ることです。

一日目の最初は高山市内にある「光記念館」を参観しました。当日は休館日でしたが特別に入館許可をいただき、係員の方の誘導と解説をしていただきました。平成十一年に開館し広大な敷地に、飛騨展示室、人類史展示室、美術展示室、企画展示室、能舞台、ピラミッドホール等多数の施設があり、収蔵品として、書、日本画、浮世絵、工芸、西洋絵画、彫刻など多種類の著名な人物の作品また貴重な作品が収蔵され展示されていました。

「手島右卿記念室」には、手島右卿先生の若き頃から晩年に至るまでの主な代表作、資料、愛用の数々が展示されており造型性豊かな先生の作品を見ることができました。

高山グリーンホテルで昼食後、上高地に向かいました。

上高地は、花が咲き誇り、山々の緑も楽しめる鳥の鳴き声や清流に癒され、河童橋、大正池などの名所を自由に歩き自然を満喫しました。

新穂高温泉「穂高荘山のホテル」に宿泊し、二日目はまず鍋平高原に向かいました。「し

らかば平駅」から第二新穂高ロープウェイの二階建てゴンドラに乗り、七分ほどで標高二、一五六mの山頂へ到着しました。当日は天候にも恵まれ山頂展望台からは四方雄大な景色を堪能することができました。

次に向かったのは飛騨古川市内で、飛騨古川は豊臣秀吉の命を受けた金森長近が飛騨を統一し、二代目の河重が平城「増島城」を築き、城下町を作りその町並みが今なお残っています。飛騨古川では自由散策で、飛騨の木材を使い伝統技術を駆使して建てられ、木組みを体験できる「飛騨の匠文化館」、約四百年前に増島城の濠の水を利用し新田開発のために作られ、一九六八年に鯉が放流され約千匹が泳いでいる「瀬戸川と白壁土蔵街」、祭り屋台が三台展示されからくり人形や伝統工芸の実演またお起し太鼓や神輿行列など古川祭りの映像が見られる「飛騨古川まつり会館」、三寺まいるの「円光寺・本光寺・真宗寺」、建物が国の登録無形文化財の造り酒屋など、暑い中でしたが各自散策し満喫しました。

今回の国内史跡探訪研修旅行は、猛暑の中での研修旅行でしたが、上高地・奥飛騨は標高が高く涼しい中で回ることができました。参加者をはじめ多くの方々にご協力いただき、無事に終えることができましたこと、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

国内史跡探訪研修旅行 日程表

| 日数 | 月日 (曜日) | 旅行内容 |
|----|---------------|---|
| ① | 8月3日 (水曜日) | 8時15分 JR名古屋駅西口広場に集合 8時30分 貸切バスにて高山市内へ 11時00分 「光記念館」に到着、記念館を背景に号車ごとの集合写真を撮影 ※当日の「光記念館」は休館日でしたが、特別に係員が誘導と解説を行いました。 12時25分 昼食会場に向けて出発 12時30分 「高山グリーンホテル」1階「瑞祥」にて昼食 14時00分 上高地に向けて出発 14時40分 「赤かぶの里」でトイレ休憩 15時15分 「上高地駐車場」に到着、自由散策 17時00分 宿泊ホテルに向けて出発 17時30分 「穂高荘山のホテル」に到着、自由行動 18時30分 南館2階「芙蓉の間」にて懇親夕食会 20時30分 夕食後解散、自由時間 |
| ② | 8月4日 (木曜日) | 7時15分 南館2階「芙蓉の間」にて朝食 8時30分 ホテルを背景に号車ごとの集合写真を撮影 8時45分 貸切バスにて鍋平高原へ 9時00分 「鍋平高原バス駐車場」に到着 ・駐車場から第2新穂高ロープウェイ乗り場「しらかば平駅」までは緩やかな傾斜の登坂で、徒歩5～10分 ・120名収容可能な2階建ゴンドラ(9時15分発)で山頂へ(所要時間は7分) ・山頂駅「西穂高口駅」発のロープウェイ(毎時15分・45分)で下山 10時30分 数河高原に向けて出発 11時45分 「ドライブイン数河」にて昼食 13時00分 飛騨古川に向けて出発 13時30分 「飛騨古川市内バス駐車場」に到着、自由散策 15時00分 貸切バスにて帰路へ ※途中、サービスエリアにてトイレ休憩 17時45分 JR名古屋駅西口広場に到着、解散 |

国内史跡探訪研修旅行(奥飛騨の旅)

平成二十八年八月三日(水)～四日(木)



1号車



2号車



3号車

国内史跡探訪研修旅行参加者名簿

研修旅行役員

名誉会長 樽本 樹邨

名誉副会長 安藤 滴水

名譽副会長 鬼頭 翔雲

理事長 伊藤 昌石

副理事長 松永 清石

副理事長 関根 玉振

事務局長 大池 青岑

企画委員長 荒川 恵風

号車長 樽本 樹邨

1号車 鬼頭 翔雲

関根 玉振

飯田 瑤華

井口 方燕

磯谷 凄聴

伊藤 龍仙

伊藤 梅川

犬飼 緑汀

岩田 南風

大橋 盛涛

梶山 積山

神谷 緑泉

北川 爽風

黒川 虚宇

小島 瑞柳

後藤 春洋

近藤 詠谷

佐久美 泉涯

佐藤 汀柳

下村 慶雲

庄田 華鳳

白井 景星

鈴木 美豊

関根 玉翠

世古口 大虚

高桑 嚴風

鶴見 翠川

勅使河原 惠翠

寺尾 桑林

遠山 柳風

中川 瑞風

林 大樹

深谷 惠庭

福岡 林泉

山際 雲峰

横井 宏軒

三野 島凌雲

伊藤 昌園

後藤 滴水

伊藤 汀鶯

伊藤 昌石

伊藤 昌郷

伊藤 昌亭

伊藤 竹徑

稲垣 賦草

上田 蘭月

内山 緑水

大島 愛子

岡田 松扇

神谷 紫香

木俣 芝香

黒野 美枝

小塚 啓太

後藤 梅鶯

近藤 翠峰

佐野 恵子

澤田 峰敏

武内 恵子

永谷 童州

波切 香葉

波多野 凌舟

水野 菜月

山中 桂山

横山 夕葉

毛利 恵風

松永 清石

浅井 紅鶴

天野 白雲

石原 聲風

伊藤 曉嶺

犬飼 游華

猪又 松峰

岩田 潤流

大池 青岑

長田 正嗣

長田 裕華

勝海 芝香

加藤 松雲

加藤 翠林

川瀬 重幸

工藤 俊朴

近藤 英志

酒井 光華

志村 玲香

武山 翠屋

谷村 洋恵

長澤 美峰

成瀬 伸芳

西垣 美茜

西富 峯子

林田 虎峰

原田 圭竹

古川 昇史

水田 美泉

山口 江鶴

山内 律舟

山田 杏華

三号車

号車長 毛利 恵風

松永 清石

浅井 紅鶴

天野 白雲

石原 聲風

伊藤 曉嶺

犬飼 游華

猪又 松峰

岩田 潤流

大池 青岑

長田 正嗣

長田 裕華

勝海 芝香

加藤 松雲

加藤 翠林

川瀬 重幸

工藤 俊朴

近藤 英志

酒井 光華

志村 玲香

武山 翠屋

谷村 洋恵

長澤 美峰

成瀬 伸芳

西垣 美茜

西富 峯子

林田 虎峰

原田 圭竹

古川 昇史

水田 美泉

山口 江鶴

山内 律舟

◎印：研修旅行役員

◇印：記録

○印：顧問・理事・監事

△印：企画委員

◇印：協賛会員

1号車。

勅使河原 惠翠

二〇一六年八月三日、リオ・オリンピックの開幕を四日後に控えた夏の日の朝、一号車は樽本先生をはじめ三七名を乗せ快晴の名古屋を発ちました。号車長の荒川先生率いる一号車は男女半々。発車後まもなく、プッシュ、ツットとビールの缶の開く音が響き（笑）、男性の方々はビール缶や焼酎が、女性の方々はお菓子が行き交い、おしゃべりに花が咲き、東海北陸自動車道を通って高山を目指しました。窓の外は目を細めるほどの陽が注ぎ、深い緑が続き旅気分が高まります。十一時に広大な「光ミュージアム」に到着し、戦後書壇手島右卿書や現代書家、更に著名な絵画の数々を堪能します。館内は私達一行の貸し切り状態。けっして不人気なわけじゃありません。実は本来休館日にも関わらず、私達のために特別に会館していただいていたのです。感謝。一行は、高山グリーンホテルで昼食をいただいた後、安房トンネルを抜けて上高地へ。大正池を眺めながら駐車場に到着、バスを降りるとそこは空気が冷たくて、猛暑多湿の名古屋とは別世界です。河童橋付近を散策し高地の空気と梓川の冷水を満喫しました。その日の宿泊は穂高荘山のホテル。宴会ではビンゴ大会やカラオケ大会で盛り上がり、一号車の黒川先生が松山千春ばりの美声を聞かせてくださりトリを努められました。普段お話しする機会のない先生方と接せられる貴重な場でした。部屋に戻り九時過ぎ頃、ホテル自慢の二百人入ることが

できる混浴大露天風呂があると聞いて、友人と立ち寄ってみることに。ラッキーなことに誰も入っていないことを喜び足を沈めてきました。貴重な経験ができました。

二日目、夜半の雨も上がり昨日に劣らぬ快晴です。バスで鍋平高原に向かい、日本で唯一の二階建て新穂高ロープウェイで参加者一同山頂西穂高口駅へ。上高地よりさらに涼しく、半袖では肌寒いほど。雲海が広がり穂高連峰など三六〇度の大パノラマを前に皆さん写真撮影に余念がありません。山を下り飛騨古川の街を散策した後帰途に着きました。最後の休憩のため関SAでバスを降りたとき、久しぶりにじっとりした湿気を感じ、再び現実に戻ってきたことを実感しました。

今後も、書道活動や今回のような旅行を通じて皆様方との一期一会を大切に交流を深めさせていただきたいと思われました。旅行のお世話をしてくださる温湯様から来年三月をもって旅行業を終わらせるとのご挨拶があり一抹の不安を残しながらも全員無事名古屋に到着いたしました。

今後も、書道活動や今回のような旅行を通じて皆様方との一期一会を大切に交流を深めさせていただきたいと思われました。旅行のお世話をしてくださる温湯様から来年三月をもって旅行業を終わらせるとのご挨拶があり一抹の不安を残しながらも全員無事名古屋に到着いたしました。



上高地かっぱし



1号車代表メンバー



穂高荘山のホテル玄関にて



光記念館内部にて

2号車

山中 桂山

連日の雷雨で、さっぱりとした名駅周辺のビルや街路樹を、涼しい車窓から眺めながら自動車道を利用して、奥飛騨へ向かう旅が始まりました。二号車は、総勢二八名。安藤滴水名誉副会長、伊藤昌石理事長はじめ幹部の先生方が同乗。社中では早速、伊藤昌園号車長や役員の先生方からお菓子や飲物を配布していただきました。

東海北陸自動車道では目もくらむような高所で、四車線化に向けた工事が掘削機や重機を使って急ピッチで進められています。清流長良川を眼下に車中では、ユーモア豊かなガイドさんの話で大変盛り上がっていました。

十一時過ぎ、高山市内にあるマヤ文明をモチーフにした複合的ミュージアム『光記念館』に到着。常設展には手島右卿記念室の終戦間近の空襲のすさまじい破壊力を表現した『崩壊』があり、また、二号車の波切童州理事の作品も展示されていました。館内は広く、再度訪れたい施設でした。

昼食は「高山グリーンホテル」にておいしい料理とお酒もいただきました。

その後、上高地へ入る少し手前からは、緑いっぱいの木々の中、林の中を幾度も曲がり、梓川に沿って目的地へ。かっぱ橋周辺の散策では、澄みきって冷たい流れの梓川に手を入れて暑さを忘れしました。

大正池を後に、三〇分ほどで奥飛騨温泉郷にある「穂高荘山のホテル」に到着。参加者が一同に会した懇親夕食会では、各会

派の交流の場として楽しい時を過ごしました。活火山焼岳の恩恵を受けた露天風呂は、夜は漆黒の闇の向こうから聞こえる瀬音を聴きながら疲れを癒してくれました。朝には漂う湯気の中、北アルプスの三千m級の山々の稜線が次第に明るくなっていく様子を観て英気を養うことができました。

朝食後「鍋平高原」へ、第二新穂高ロープウェイ乗り場から一二〇名収容可能な二階建てゴンドラで標高二、一五六mの雲上のある「西穂高口駅」へ、山頂展望台からは北アルプスの雄大な景色が広がっていました。

午後は白壁土蔵街を流れる瀬戸川で有名な飛騨古川へ。澄んだ流れに悠々と泳ぐ色鮮やか鯉に、一時の清涼感を味わうことができました。名水が醸すこだわりの美酒も有名でお土産の一つにもなりました。

帰路は行きと同ルートでしたが、一宮インター付近の事故渋滞で途中一般道へ降りたこともあり少し遅れました。後藤汀鶯常任顧問からのご挨拶で「この旅行で自然からの贈り物をいただいたようだ。」というお言葉に皆さんも同感されたようでした。

今回、懇親夕食会や露天風呂そして部屋などで会派を越えた様々な情報を交換でき、たいへん貴重な時間を過ごすことができました。この研修会旅行に当り、お世話になりました諸先生方に感謝申し上げます。



2号車車中にて



光記念館にて



穂高荘山のホテル玄関にて



光記念館に到着

3号車。

林田 虎峰

初めての参加のため、不安と期待の中で迎えた八月三日、名古屋駅西口広場に着的いた。天候は曇り、薄陽の差す蒸し暑い朝だ。八時前にも関わらず、多くの人が集まりざわめいている。私が乗り込むバスは、三号車だ。八時三〇分、三三名を乗せ、飛騨高山に向けて出発。松永先生のあいさつ、バスガイドの諸注意、特に「シートベルトは必ず着用」を守り配られたつまみ、飲み物に早くも手が伸びる。車内は、なかなかのアットホームな楽しい雰囲気だ。弾む会話が、バスを加速させる。一路東海北陸高速道を走り続ける。十時二〇分、ひるがのサービステリアで休憩。名物の牛乳たつぷりのソフトクリームを食べながら、乗車。

十一時すぎ、高山市中山町にある「光ミュージアム」に着いた。博物館と美術館の複合型で地上一階、地下三階の鉄筋コンクリート、外壁は、フランス産のライムストーン。クリーム色の大きな建て物だ。築後、十五年経っているそうだが、とてもきれいな博物館美術館だ。水曜日は、休館日らしいが、休みにも関わらず、開館して頂き、学芸員の方に館内を案内していただいた。絵画、書の内容等々、多種の数多くの素晴らしい作品を鑑賞することができた。

光ミュージアムを後に、「高山グリーンホテル」で昼食。盛り沢山の料理をいただき、さあ！上高地へ向けて出発だ。バスで走ること約一時間三〇分、午後三時半すぎ、上高地に到着した。曇り空、傘は必要なさそ

うだ。バスを降りると、ヒンヤリとした空気が身体を包む。「かつば橋」まで歩き、後は、一時間程、自由行動だ。思いおもいに梓川のほとり、両岸の売店等で散策を行なった。再びバスに乗車、「穂高荘山のホテル」へ着いた。まずは、ひと風呂浴びて、懇親会へと移る。ここで、三号車の活躍が目立つ。「五箇山麦座踊り」を披露した毛利恵風先生、衣装もバッチリ決めて、迫真の踊りは、観衆を魅了した。同じく三号車の山田社中の女性グループによる息の合った振り付け込みの合唱は、拍手喝采を受けた。芸の無い私は、料理に舌鼓を打ちながら拍手。

八月四日、天候は晴れ。朝食をいただき、新穂高ロープウェイを目指して、バスを走らせませす。二階建、定員一二〇名のゴンドラに約八分程揺られながら、山頂西穂高駅に到着。肌寒ささえ感じる空気の中で、三百六十度見渡らせる展望台は、連なる山脈、覆い被さる雲など目の前の大自然は絶景だ。穂高山脈を堪能しながら、最後の研修スポット飛騨古川を訪れた。白壁土蔵、町の中を流れる澄み切った瀬戸川に泳ぐ鯉、歴史が脈々と伝わる古い寺など、古い町並みを満喫した。

バスは名古屋へ向けて帰路に着く。名古屋駅西口広場に午後六時すぎ無事到着。旅行中、和気藹々楽しみながら史跡探訪旅行が出来たことに感謝申し上げます。ありがとうございます。



空(天)に届きそうな西穂高口駅屋上にて



高山グリーンホテルでの昼食



光美術館外観



穂高荘山のホテル玄関にて



東三河支部創立四十周年を迎えて

支部長 古川昇史

記念誌「40年のあゆみ」発行

創立四十年を機会に、これまでの記録を整理して「40年のあゆみ」にまとめました。題字は二代支部長寺田樹風先生に執筆して頂きました。



「40年のあゆみ」

創立四十周年記念講演会

七月三日(日)午後三時半より、ホテルアソシア豊橋にて、創立四十周年記念講演会を開催しました。講師は、中日書道会名誉会長代行の樽本樹邨先生です。



講師 樽本先生

第四十回記念東三河支部交流会

記念講演会終了後、午後五時半より、会場を移して、第四十回記念東三河支部交流会を盛大に開催しました。

(参加者一〇九名)

初めに、支部開設当時役員を務められた顧問の権田穂園先生が開設当時の逸話をお話しされ、手元の記念誌「四十年のあゆみ」を見ながら会員一同四十年の歴史に思いをはせました。本部から樽本樹邨名誉会長代行、鬼頭翔雲名誉副会長、伊藤昌石理事長、松永清石副理事長のご臨席を賜り、心温まるお祝辞をいただきました。

交流会の中、第六十六回中日書道展入賞者が紹介され、樽本先生が受賞者と握手を交わしてくださった場面もあり、和やかな交流会になりました。



交流会風景



第四十回東三河支部展

六月二十八日(火)から七月三日(日)まで、豊橋市美術館にて第四十回東三河支部展を開催しました。

(出品数一三〇点)

四十回の記念展ということで、故石川雲鶴先生(初代支部長)、故山本畊雲先生(二代支部長)の御遺作を展示させていただきました。また、本部から伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長、大池青岑企画委員長の玉作を賛助出品していただき、会場に華を添えていただきました。諸先生方、多くのお客様にご来場いただき、温かいご指導や励ましを賜り、記念の展覧会を盛会に終えることができました。



展覧会会場風景

歴代の支部長はじめ運営委員の方々が大切に保管してくださっていたたくさんの記録を、A3用紙裏表にまとめるのは大変な作業でしたが、過去の様々な行事にふれることができ価値のある仕事ができたと感謝しています。

支部会員の皆様や中日書道会関係の方々に配布し、東三河支部四十周年の大きな記念となりました。

北勢支部創立三十周年を迎えて

支部長 井口方燕

創立三十周年記念展

平成二十八年七月十五日(金)より十七日(日)まで、北勢支部三十周年記念展を開催致しました。十七日には本部より、本会名誉顧問太田宏次様、理事長伊藤昌石先生、第一企画部長横井宏軒先生のご臨席を賜り、総会、講演会、懇親会と開催しました。

平野公桑氏、

水谷苔徑氏、加

藤子華氏、中川

京童氏、谷泉石

氏、平野公慎氏

等歴代支部長の

方々のご尽力に

より、年々充実

した展覧会、講

演会、研修会、

講習会を実施し

ております。歴

代支部長が積み

重ねられた業績

のもと、今の北

勢支部があると

思うと、やかも

すると押し潰さ

れそうになる

位、長い歴史

の重みを感じず

にはいられませ

ん。そのほんの



会員らの力作が並ぶ書道展＝四日市市文化会館で



会場風景

わずかな時間の一部ではありますが担えました事を恐縮に感じております。

三十周年記念行事については、役員会で検討を重ねた結果、展示会の充実を図ることとし、前記載の日程にて四日市市文化会館三階展示室にて開催。出品数は本部の先生の作品四点と講師先生の特別出品一点、会員七四点、会員外九点の合計八八点となりました。従来の倍の広さ

の会場を確保、①出品作品を大きく、②「北勢地域ゆかりの書跡」展併催、③講習会で作成した地場産業萬古焼きの陶板、湯のみ等の展示を行いました。

出品に協力頂きました会員外の皆様、記念行事に奔走して頂いた先生方、厚く感謝申し上げます。

北勢地域ゆかりの書跡

記念行事のメインとしては会員の役に立ち一般の方にも興味を持って頂けるものとして地域の先賢の書を紹介しました。具体的には、北勢地域の先賢の書作品であつて会員の所蔵品に限定して蒐集を始めました。

展示した主なものは、文人大名として著名な長島藩主・増山雪斎、桑名で守国公として慕われている

松平定信、国学者・橘守部、製糸会社を設立した伊藤小左衛門、東洋紡績を設立した伊藤傳七(拓本)はじめ四日市発展を支援した渋澤栄一(拓本)、実業家で将棋名人・小菅剣之助(双鉤填墨)、宮廷歌人・鈴木小舟、小説家・丹羽文雄、俳人・山口誓子。書家として加藤光城(四日市市)、種村山童(員弁市)、平野公桑(初代支部長)、水谷苔徑(二代支部長)各先生です。この企画は普段の展覧会の作品とは少し違った雰囲気をもたらし出し、来場者を楽しませることが出来ました。

地場産業萬古焼きの陶板、湯のみの展示

講習会で製作した四日市の地場産業である、萬古焼きの陶板作品を陳列しました。既成のマグカップ、湯

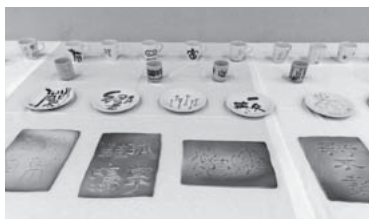
のみに絵つけた物もあり、興味を持って眺める子供様も見かけました。

記念講演会

続いて、澄懷堂学芸員井後尚久先



記念講演



萬古焼き

記念懇談会

十七時よりの懇談会は、プラトンホテルにて、和氣藹々の内に終了しました。

節目の一日は私に取りまして、緊張の連続で、雲の上を歩く心持ちでした。

記念冊子の編集

「北勢地区ゆかりの書跡」は地域ゆかりの先賢の書作品を二十数点まとめた物で、会員が所蔵する事を前提としています。会員所蔵はなかなか難しいものですが、地域との文化交流を考え、書を志す者以外の方にも広く書道に興味を持って頂ける事を願って発刊したものです。

尚、他にも三重県立図書館、三重県立博物館、各関係市町の図書館、博物館へも寄贈し、書を通じて会員、地域の方々との交流を深めてまいりたいと思っております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



発刊した記念誌

生による「弘法大師(空海)の書」と題して講演を頂きました。入場者数百名、会場は一杯で資料がたりない位、盛況でした。皆様熱心に聞き入っていました。

平成28年度 公益社団法人 中部日本書道会
第25回記念 壽書展

(特別行事) 祝賀・懇談会

70才以上の方を対象にご長寿をお祝いし、益々のご健勝を祈念して開催致します。
 ご高覧下さい。

会場：電気文化会館 (5階 東・西ギャラリー)
 名古屋市中区栄2-2-5

会期：平成28年11月1日(火)～11月6日(日)
 午前10時～午後5時(最終日は午後4時まで)

主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社

後援：愛知県・愛知県教育委員会・岐阜県・岐阜県教育委員会・三重県・三重県教育委員会
 名古屋市・名古屋市教育委員会

◇出品者名

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-------|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 渡邊 | 横山 | 森 | 三神 | 堀場 | 早川 | 中村 | 中島 | 津田 | 田中 | 武山 | 高橋 | 佐々木 | 近藤 | 権田 | 倉重 | 神谷 | 落合 | 今井 | 安藤 | 平松 | 中林 | 土屋 | 後藤 | 黒野 | 黒田 | 安藤 | 樽本 | 海部 | | | | | | |
| 笙鶴 | 夕葉 | 清暉 | 榮軒 | 凶南 | 泰山 | 秀峰 | 龍溪 | 秋月 | 白雲 | 翠屋 | 秀箭 | 木島邦 | 素光 | 穂園 | 拜石 | 美舟 | 深淵 | 仙童 | 秀川 | 紫雲 | 露風 | 陽山 | 汀鶯 | 清宇 | 玄夏 | 滴水 | 樹邨 | 俊樹 | | | | | | |
| 工藤 | 清 | 鬼頭 | 神谷 | 加藤 | 小原 | 小野 | 尾関 | 大塚 | 大谷 | 江馬 | 梅村 | 宇野 | 岩本 | 伊吹 | 伊藤 | 石原 | 池田 | 飯沼 | 赤堀 | 青木 | 渡辺 | 築瀬 | 服部 | 服部 | 西堀 | 中川 | 鈴木 | 杉江 | 柴田 | 小林 | 久原 | 亀井 | 磯和 | |
| 茜邑 | 芳園 | 城山 | 采邑 | 翠林 | 紫明 | 景月 | 楊花 | 窓月 | 素子 | 翠峰 | 鶯谷 | 光峰 | 祥龍 | 代美 | 翠芳 | 春香 | 成子 | 天光 | 正風 | 芳翠 | 石鼓 | 舟香 | 祥石 | 松香 | 少苑 | 京童 | 瑞象 | 秀城 | 秋水 | 静葩 | 佳子 | 幡川 | 鴻東 | |
| 光澤 | 松下 | 本田 | 穂積 | 藤原 | 深田 | 久田 | 早野 | 則武 | 野中 | 丹羽 | 新美 | 中村 | 中村 | 中川 | 錫澤 | 谷 | 武山 | 竹内 | 高田 | 田尾 | 鈴木 | 庄田 | 下郷 | 志水 | 志水 | 酒瀬川 | 酒井 | 齋藤 | 近藤 | 近藤 | 児島 | 小島 | 幸村 | 栗木 |
| 閑石 | 鶴苑 | 秀岳 | 爽風 | 郁代 | 芳香 | 宏道 | 江郷 | 曾川 | 裕 | 珠光 | 竹童 | 清園 | 貴舟 | 澄江 | 泉石 | 昂石 | 春翠 | 香坡 | 穂昂 | 静苑 | 華川 | 豊園 | 春汀 | 玉華 | 麗月 | 翠苑 | 晴翠 | 雲洋 | 泰碩 | 雪舟 | 溪雪 | 琴聲 | | |
| 熊谷 | 國廣 | 神谷 | 加藤 | 加藤 | 加藤 | 春日 | 尾中 | 岡田 | 大野 | 稲吉 | 稲垣 | 伊藤 | 伊藤 | 石倉 | 飯田 | 浅井 | 縣 | 青山 | 渡辺 | 吉井 | 山脇 | 山本 | 山田 | 山川 | 山川 | 保田 | 森 | 桃井 | 毛利 | 村瀬 | 三輪 | 宮田 | 三宅 | |
| 弦謠 | 寿仙 | 志奈子 | 芳枝 | 千冬 | 碩望 | 井清苑 | 杉得 | 昭尚 | 瞬玲 | 欣香 | 泗郷 | 賦美 | 鴻仁 | 桜舟 | 寿泉 | 清泉 | 欣司 | 碧雲 | 月潭 | 子雪 | 三枝 | 史鳳 | 梢心 | 昌泉 | 杉徑 | 翠溪 | 實年子 | 祥谷 | 恵風 | 竹風 | 晴風 | 清風 | 杞璋 | |
| 氏家 | 渡辺 | 山田 | 山田 | 三輪 | 水野 | 松田 | 松尾 | 牧野 | 前越 | 福田 | 深井 | 平松 | 平野 | 信川 | 西尾 | 中田 | 中垣 | 長江 | 富田 | 谷川 | 田中 | 竹内 | 宗林 | 志賀 | 三治 | 佐藤 | 佐々木 | 酒田 | 榊原 | 坂井 | 近藤 | 小林 | 黒野 | |
| 藤花 | 紫江 | 祥恵 | 鶴玲 | 成男 | 紅翠 | 穂輝 | 滔石 | 瑞風 | 秀鳳 | 祥光 | 悠水 | 主鳳 | 和秀 | 芳枝 | 孤山 | 菊香 | 幸聲 | 華虹 | 頌川 | 景仙 | 桜花 | 芳華 | 翠徑 | 雪子 | 涛星 | 桃華 | 木博山 | 悠園 | 虹輝 | 諏谷 | 稚泉 | 翠雲 | | |
| 10月11日現在 | (順不同) | 山口 | 安井 | 三輪 | 服部 | 丹羽 | 永田 | 寺尾 | 後藤 | 神谷 | 加藤 | 加藤 | 大野 | 内山 | 岩越 | 市田 | 青木 | 渡邊 | 堀 | 菱田 | 野村 | 田辺 | 下村 | 後藤 | 小島 | 熊崎 | 木次 | 川口 | 岡田 | 太田 | 江崎 | | | |
| | | 紅陽 | 包子 | 江雪 | 明 | 錦龍 | 正毅 | 洌 | 蒼流 | 嘉子 | 紫公 | 恵雲 | 大典 | 香鈴 | 敏子 | 清岳 | 洋子 | 翠芳 | 美佐子 | 花影 | 繁子 | 泰子 | 如蓬 | 梢月 | 紫藍 | 明雪 | 寿香 | 芳雲 | 正舟 | 荀媪 | 紫宮 | | | |

第三十三回

読売書法展入賞者

(本会会員関係分)
(中部展出品者より)

読売新聞社賞

〈漢字〉

黒川 虚宇

黒野 芝香

〈調和体〉

長村 子鴻

宮田 洋美

読売俊英賞

〈漢字〉

高橋 竹香

谷 鴻風

横井 宏軒

〈かな〉

小野田景月

野村 清涼

〈調和体〉

赤堀 正風

近藤 青洸

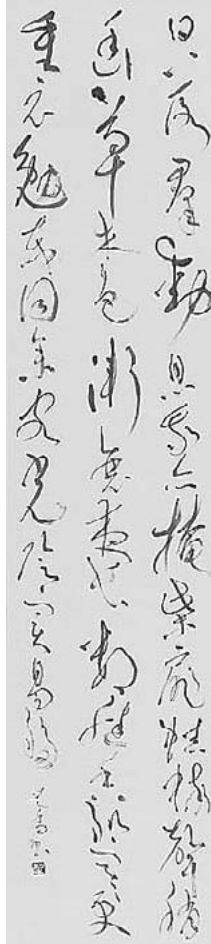
篠田 祥濤

鈴木 香鵬

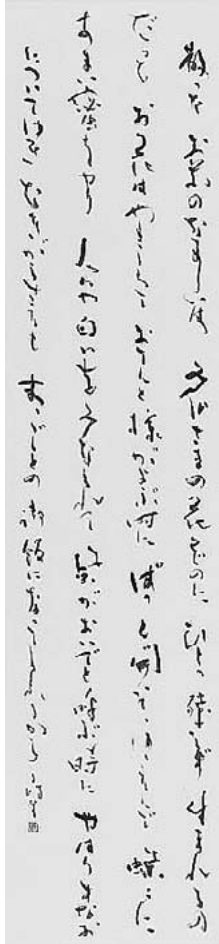
原賀 瑞芳



読売新聞社賞 (漢字) 黒川 虚宇



読売新聞社賞 (漢字) 黒野 芝香



読売新聞社賞 (調和体) 長村 子鴻



読売新聞社賞 (調和体) 宮田 洋美

読売奨励賞

〈漢字〉

美希 昌風

森本 夏溪

奥野 鶴扇

矢野 彩心

〈篆刻〉

窪田 蝶華

〈かな〉

奥村 三葉

山田 杏華

伊藤 紅彩

五井 花径

加藤満寿江

加藤 定子

山本 小谿

稲垣 華扇

永井 天鱗

成田 尚子

國島 英華

横井 静嘉

今井 修武

中川 瑞玉

花井 竹聲

國廣 寿仙

〈かな〉

太田 累淪

堀内 鐘圓

星野 露草

小林 峰玉

浅野 蛍雪

高島 濤翠

〈かな〉

板倉 恵子

上野 総子

鈴木 夏龍

伊藤 静春

稲垣 紅春

〈調和体〉

鈴木 白翎

大武 英子

伊藤 春翠

鈴木 裕子

近藤 峻岳

鈴木 美翠

大野 妙子

小笠原青華

成瀬 孝子

佐藤 典子

関谷 蒼玄

大原 律苑

河口 霄華

村瀬 季舟

毛利 暁草

竹中 青蘭

鏡 千裕

杉浦 芳苑

〈篆刻〉

林田 虎峰

館 由津

金倉あゆみ

中川 瑞風

〈調和体〉

須田 静波

青木 美洲

勅使河原恵翠

小島 幸波

藤堂 弘風

阿部 光泉

長尾 珠泉

鈴木 千恵

堀 清溪

安藤 太起

野村 揚月

鈴木 千恵

星野 蘭雪

家田 翠徑

浜野 春瑛

鈴木 千恵

村野 清溪

今井 夏虹

原 翠舟

田村 泉舟

山崎 富泉

今村 寿鴻

牧野 瑞風

古山 玉扇

山本 香川

石川 明加

江崎 露舟

松崎 朱實

吉田八千代

大橋 南風

遠藤 紫聖

水谷 天風

森 則子

加藤 香雪

岡田 愛子

山口 晶子

吉村佳代子

田代 青穂

岡田 恵鶴

望月 希彩

山中みね子

波多野香葉

奥田 蘇水

安田 雪篁

山本宮乃理

第六十八回

毎日書道展入賞者

〔本会会員関係分〕
〔東海展出品者名簿より〕

毎日賞

〈漢字部Ⅱ類〉

森 絹泉

保田 翠苑

〈近代詩文書部〉

梶田 汐里

枍久保律子

泉 好子

近藤 瑤華

原田 沙季

松田 清美

鈴木 いずみ

鈴木 美月

U23奨励賞

佳作賞

〈漢字部Ⅰ類〉

谷口 琇苑

上松 早苗

谷利 紫鳳

〈近代詩文書部〉

村上 影月

鈴木 香葉

林 京花

堀部 汐里

村上 史麗

中村 香葉

平岡 妙紅

山口 舞子

〈漢字部Ⅱ類〉

松下 聖心

赤根 紫明

横井 吟虹

和佐田祐翠

〈近代詩文書部〉

青木 榮俊

梅村 鉄明

〈大字書部〉

竹内 紫燕

大橋 幽徑

尾崎 虹葉

宮島みどり

梶田 春陽

杉本 扇鈴

宮島みどり

小林 恵風

築山 美香

三輪 三麗

桜井 和香

※両展共記載漏れについては極力注意しておりますが、万が一ございましたら本部迄ご一報ください。
次号に掲載させていただきます。

第67回 中日書きぞめ展作品募集

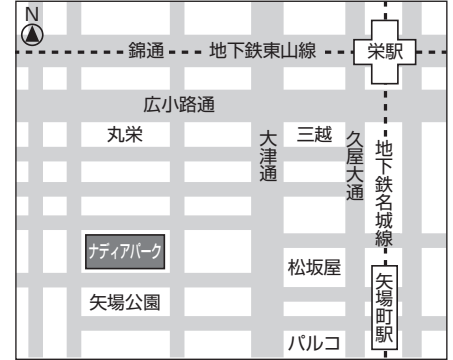
◆会 期 平成29年3月19日(日)・20日(月・祝)

19日(日) 午後1時～午後6時

20日(月・祝) 午前10時～午後6時

◆会 場 ナディアパーク2F アトリウム

名古屋市中区栄3丁目18番1号



◆授賞式 平成29年3月20日(月・祝) 午後2時
ナディアパーク3F デザインホール

◆褒 賞 文部科学大臣賞、愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市長賞、
愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋市教育委員会賞、中日書道会賞、中日新聞社賞、
東海テレビ放送賞、CBCテレビ賞 (以上申請中)、名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞、特選、
準特選、秀逸、佳作、入選 ※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。

★本年はCBCテレビ賞以上の作品を中日展 (一般部展覧会) 愛知県美術館ギャラリー8階に
平成29年6月14日(水)～18日(日)まで展示します。

◆資 格 幼年・小学生・中学生・高校生

◆課 題 自由 — 参 考 —

| | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 幼年 う た・いのち | 小4 自然の美・生命の力 | 中2 友好を深める・地球大交流 |
| 小1 みらい・みどり | 小5 夢の大地・世界交流 | 中3 新技術開発・友好提携 |
| 小2 ふれあい・心のとも | 小6 地域開発・友情の輪 | 高校 墨の祭典・環境の美化 |
| 小3 生きる力・町の美化 | 中1 未来の夢・美しい自然 | |

◆出品要項 詳しい出品要項出品目録が中日書道会本部にありますのでお問い合わせ下さい。

◆作 品 ○用紙は、半切1/4縦 (八ツ切) ※高校生は半切縦も可 ○作品は、表装しないこと。
○書体は、幼・小=楷書、中=楷書又は行書、高校生=自由
○作品には、学年・氏名を必ず明記すること。

◆出 品 料 一点につき400円 (個人出品者は賞品、賞状の郵送料として300円を加算して下さい。)

◆搬入締切 平成29年1月19日(木) 午前10時～午後3時
(送付される場合は18日(水)中部日本書道会本部必着でお願いします。)

◆搬入場所 公益社団法人 中部日本書道会
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
担当 教育部長 後藤啓太
TEL <052> 583-1900 FAX <052> 583-1910

◆取 扱 所 伊藤大林堂、永楽堂、應天堂、魁盛堂、伽藍、菊屋商店、高誠堂、小松表具店、柴田紙店、新泉堂、
青雲堂、青柳堂、荘文堂、大玄堂、長楽斎筆舗、名古屋キョー和、名古屋ホウコドウ、平野筆墨堂、
松屋紙店

主催 公益社団法人 中部日本書道会、中日新聞社

後援 愛知県・愛知県教育委員会、岐阜県・岐阜県教育委員会、三重県・三重県教育委員会、
名古屋市・名古屋市教育委員会、東海テレビ放送、CBCテレビ (申請中)

平成28年度 第20回 書の魅力 公開講座

会員及び一般市民を対象に、中部日本書道会を代表する2名の講師が書の魅力について講演します。

○日 時 平成28年11月6日(日)

受付 12:30

開会行事 13:00

第一講座 13:15~14:15

第二講座 14:35~15:35

理事 波切童州先生

理事 加藤裕先生

演題

「私のたからもの」

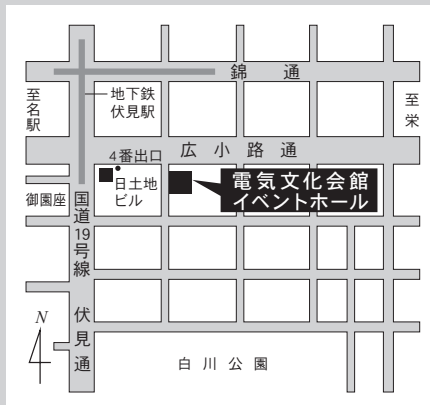
演題

「書道散歩」

閉会行事 15:35 修了証授与

○会場 電気文化会館 イベントホール (5階)

名古屋市中区栄 2-2-5



主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社 後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

会員交流 ボウリング大会

12月11日(日) 13:30

懇談会 競技終了後

会場 星ヶ丘ボウル

会費 3,000円(会員外4,000円) ※ 競技費、懇談費用を含む

申込〆切日 11月11日(金) 本部又は厚生部小島瑞柳まで。

会員外の方も参加出来ますので、ご友人等おさそい合わせください。多数のご参加をお待ちしております。(厚生部)

あしがき
・中日会報第一八二号をお届けいたします。
・今号は、今後の行事案内が多数記載されています。詳細を確認いただき、ご参加、ご協力をお願いします。
(編集部)

| | | | |
|------------------------------|---|-----------------------------------|------------------------------|
| 事後報告 | | 心より哀悼の意を表し ご報告申し上げます。 (厚生部) | |
| ○9月1日 評議員 山田清香氏 享年73才 | ○9月15日 評議員 日江井芝香氏 ご母堂 奈美子様 享年83才 | ○8月5日 参与 久米義山氏 享年95才 | ○6月15日 準会員 大野春山氏 享年81才 |
| ○1月12日 評議員 田中仁卿氏 享年80才 | | | |

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

メールアドレス info@cn-sho.or.jp

支部だより (平成二十八年度 上半期)

※東三河支部、北勢支部はP7・P8に記念のページとして記載

一宮支部

支部長 岩田潤流

●二〇一六 一宮総合美術展

会期 六月九日(木)～十二日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
出品者 支部会員四十一名
主催 一宮市教育委員会
一宮市芸術文化協会



2016 一宮総合美術展会場風景

一宮市芸術文化協会に所属する書道・日本画・洋画・彫刻立体・デザイン・工芸・写真の、各団体から推薦された作家による、一宮市が誇る総合美術展です。
一宮支部からは四十一名が各々の思いで書かれた半切以上の作品を出品、全部門で総勢百五十名による大展覧会であり、多くの方々楽しくご観覧いただきました。

書部門の代表理事を務める当支部は、出品だけではなく、陳列・会場当番等の協力も行いました。

●第二十三回選抜作品展

会期 七月十六日(土)～十七日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
出品者 一〇七名



第23回選抜作品展会場風景

「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」の協賛行事であり、一宮書道連盟主催第四十四回七夕まつり学生書道展とあわせ、一宮支部として後援しています。

この「選抜作品展」は、支部役員を中心に学生書道展参加指導者も出品し、「読めて、楽しくユニークな小作品」をモットーとしています。それぞれ表現方法に工夫を凝らした作品も多く、思わず立ちどまって見入る来場者も少なくありません。

学生書道展と同会場にて開催されるため、ご家族での参観者も多く、良きふれあいと学びの場になりました。

半田支部

支部長 山内江鶴

●第五十二回学童書道展

会期 七月二十三日(土)～二十四日(日)
会場 半田市福祉文化会館
出品数 二、二九五点

本年度も支部役員と出品指導者の先生により厳正な審査が行われ、文部科学大臣賞をはじめ、多くの優秀作品が展示されました。会期中たくさんの親子さんたちが来場され、楽しそうに子供たちの作品をさがして写真を撮っていました。ある来賓の方から、子供たちの字、上手ですね、しかも見ていると気持ち「ほ」とします。大人が忘れた物を子供は持っていますね。たのしみに待っています、未来の会員たちを。



学童書道展



●『寿』色紙贈呈

寄贈日 八月十九日(金)
寄贈先 半田市、東浦町、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町

寄贈数 七一〇枚
本年も近隣一市五町の高齢者の方々へ市・町を通して贈呈する。各首長さんから「毎年ありがとうございます。皆さん楽しみに待っています。」と感謝のお言葉をいただきました。



『寿』色紙贈呈

●熊本地震義援金寄託

熊本地震に対して、学童書道展審査日に支部会員及び出品指導者の先生方に募金のお願いをしたところ、たくさんの方から募金をいただき六月十三日中日新聞半田支局に伺い支局長小蔵裕氏に義援金五万円を寄託しました。



熊本地震義援金

西三河支部

支部長 山口律舟

●第四十九回支部学生書道展

会期 七月八日(金)

十日(日)

会場 岡崎市美術館

出品数 六、〇五二点

(内高校生四二六二点)

入場者 一、九四八名

毎年テーマを決めての学生書道展。今年は「はばたく」をテーマに第四十九回展を開催いたしました。



会場風景



審査

知事賞に鶴城中・岩津さん



岡崎で学生書道展

中日本書道会主催の西三河支部学生書道展「はばたく」が、岡崎市美術館で開催された。今年も多くの作品が出品され、観客も大勢集まった。...

中日新聞掲載

濃飛支部

支部長 石原聲風

●濃飛支部展

会期 七月一日(金)～三日(日)

会場 中津川市にぎわいプラザ五階

・賛助出品 四点 伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長、大池青岑企画委員長、貴重な作品をありがとうございました。

・出品点数 六十点 会員外の作品二点

(会員は自由な)

作品一点で二十

四点を含む)

大小様々な作品

が花を添えました。

・入場者は三百余

名でした。



支部展

●支部集会・講演会・交流会

日時 七月三日(日)

支部集会

会場 中津川市にぎわいプラザ

本部より関根玉振先生、山内江鶴先生、佐野翠峰先生、上小倉積山先生に御臨席戴きました。平成二十七年事業報告、収支決算報告があり、続いて二十八年度事業計画案、収支予算案が提案されいづれも承認されました。

講演会

集会后会場にて講演会が行なわれました。

講師 関根玉振副理事長



支部展

演題 「一から始まる基本楷書」

楷書の基本をプロジェクトを使って教えて戴きました。同じ一でも六朝、慮世南、歐陽詢、褚遂良、顔真卿、鄭道昭など筆の使い方の違いが力強さやのびやかさ、変化の面白さなど作品が違ってくることを練習を通して教えて戴きました。今年も小中高の生徒も多数参加し、又他市からの参加もあり四十名程が受講しました。皆さん熱心に筆の運び方を練習していました。来賓の先生方も机間を廻り丁寧に指導して下さいました。最後に関根先生のパフォーマンス。受講者のリクエストに応え何作品も揮毫してくださいました。その度に歓声が上がっていました。



交流会



講習会

交流会

場所 恵那峡グランドホテル

今年のオープニングは、フルート・オカリナ・フレンドのみなさんによる演奏でした。乾杯のあと、淡いピンクのステージ衣装に身を包んだ美女八名の入場でした。一同目を見張る熱心に演奏を聞いていました。宴もたけなわになると話に花が咲き美しい音色を背中聴き入っている様でした。本部の四名の先生方と書について話が出来て良かったと言う感想もお聞きしました。会員の皆さんとの交流も出来、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

- 運営委員会
 - 五月二十九日(日) 出席者 三十二名
 - 企画委員会
 - 四月 二日(土)
 - 五月十四日(土)
 - 七月三十日(土)
- 主に学生書道展の作業、審査、商品等について審議を重ねる。

中南勢支部

支部長 高根桂祥

●支部集会・講演会

日時 十月二日(日)
会場 アスト津 コミュニティ施設
支部集会
参加者 四十五名

本部より伊藤昌石理事長、関根玉振副理事長、大池青岑企画委員長をお迎えし、二十八年度事業報告、会計中間報告、年明けに開催される記念展(三十周年)の事業計画が報告されました。

講演会

参加者 六十名
支部集会終了後、三重県に密着して様々な形で活躍され、教育、文化面に貢献をされていらっしゃる元井村屋社長・井村直瑛様を講師にお迎えして「外食産業の始まりの頃」という演題で、ご講演をいただきました。



講演会

誰もが関心を持つ食文化と、アメリカ修業時代のユーモア溢れる内容に、会場満席の皆様は熱心に、興味深く拝聴させて頂きました。

●研修会

日時 五月十五日(日)
行き先 奈良 杉岡華邨書道美術館を
中心にして
参加者 三十七名

五月十五日
快晴。総勢三十七名で奈良市杉岡華邨書道美術館「榎本樹邨と轟友会選抜展」を鑑賞。日本書壇を代表する先生方の、各体におよぶ個性的で圧倒的な充実の作意



杉岡華邨書道美術館玄関にて

を目の当たりに触れ驚嘆しました。

奈良駅前ホテルでの昼食ののち、奈良国立博物館「特別展・信貴山縁起絵巻」。日曜日でもあり、大勢の鑑賞者が訪れる中、中世信貴山のダイナミックな発想に満ちた仏教説話、物語が膨大な絵巻物に描かれていました。登場人物の表情、当時の風俗がつぶさに見て取れるなど、その内容の濃さはまさしく一級品の歴史資料であり、存分に楽しめました。隣接する改装したばかりの「奈良仏像館」ではおびただしい数の仏像が展示されていました。今年も盛りだくさんの研修となりました。

岐阜支部

支部長 林 玲玉

●支部集会・講演会・交流会

日時 九月十八日(日)
会場 岐阜会館
出席者 五十八名
支部集会

本部より伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長兼事務局長の御臨席を賜り、平成二十八年度支部集会と講演会、交流会が開催されました。

伊藤昌石理事長より、岐阜支部展の感想

やご助言、温かい励ましの祝詞を戴いた後、平成二十七年事業報告、収支決算報告及び、平成二十八年度事業計画(案)、収支予算(案)について審議され滞りなく承認されました。

講演会

講師 美濃市産業振興部紙業振興係長 須田亜紀先生

須田亜紀先生は、美濃市職員で美濃和紙の里の様々な企画展、美濃和紙文化の情報発信と発展に貢献されています。

一三〇〇年の歴史を誇る、美濃和紙の歴史



講演会



支部集会

「古代、近代、現代」を詳細に説明されました。正倉院に保管されている日本最古の紙は、大宝律令の際、美濃国で漉かれた戸籍用紙であり、昔から変らぬ、美しく柔らかく強い和紙の特徴、又、伝統を受け継ぎ守り伝える本美濃和紙を漉く職人技の工程等をスライドにより解説して戴きました。日常紙に接する私達には興味深く、紙の真髄を知ることが出来、意義のある講演会でした。

●支部会員展

会期 九月十六日(金)～十八日(日)
会場 岐阜市民会館
参加者 二五七名

本部より伊藤昌石理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長兼事務局長、大池青岑企画委員長兼総務部長の玉作を賛助出品して戴き会場を一層引き立てて戴きました。岐阜支部展も回を重ねる度に力作揃いの展覧会を終えることが出来ました。



支部会員展

